

## 校内別室指導支援員（登校サポーター）を活用した 不登校の改善事例について

### 不登校児童の状況

対象児童は、小学校4年生2学期終わりに体調を崩したことをきっかけに生活リズムが乱れ学校に登校しづらくなり、欠席が続くようになった。放課後に登校する日もあったが、3学期は3日ほどしか登校できなかった。小学校5年生に進級して、校内別室の支援開始後の4月からは週に1回登校し、2学期は登校できる日数が増えた。

### 具体的な取組

#### ○校内別室の活用

朝、登校できない日は校内別室指導支援員（登校サポーター）が迎えに行った。サポーターと一緒に登校できるときは、今日の予定を聞いたり、友達や家族のことなどを聞いたりしながら一緒に登校した。登校できないときは、今日はどう過ごすのか尋ねたり、放課後登校できるかを尋ねたりするようにした。

#### ○登校した際の支援（校内別室）

校内別室で過ごす際は、課題を渡し取り組めるようにした。負担がかからないようにいくつか課題を提示し、自分で選択できるようにした。

校内別室にいる他の学年の児童との交流も積極的に図るようにした。ゲームなどを通して心を開放し、学校に登校しやすい環境づくりにつながっていた。

#### ○記録簿の交流

校内別室で過ごした時間を細かく記述することで、教員や他学年の児童との関わりを把握できるようになった。この結果、管理職や他の教員も情報共有ができるようになった。



#### ○担任と登校サポーターの関わり

朝、迎えが必要かどうかを確認するようにした。授業が始まる前にサポーターが教室に来てくれることで、スムーズに連携を取ることができた。

毎日の記録簿が支援の改善にとっても参考になった。連絡事項は必要に応じて記録簿を活用することで情報の共有につながることができた。

### 成果

毎日、登校サポーターと顔を合わせることでコミュニケーションも取れ、一緒に登校できる日数が増えた。また、当該児童が自分で登校できる日も増えた。高学年ということもあり、責任感の育成にもつながった。

### 課題

学校での改善はあったが、家庭での当該児童と保護者との関わりに変化が見られるよう、家庭との連携を進めていく。